



# エルム



vol.68

発行日：令和3年5月17日

編集・発行／社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院 広報委員会 責任者／太田 秀一

## HOKUYU INFORMATION

### 新年度を迎えて

四月、新年度と聞けば自ずと気持ちが高まるものですが、やはりこの一年の自粛生活のせいか、中々「好奇心」なるものが湧いてきません。「好奇心」とは辞書には「未知のものに対して強い興味を示す心」とあります。東野圭吾は小説「真夏の方程式」の中で、主人公に「人間が成長する最大のエネルギー源が好奇心だ」と言わせています。さて成長するために何をしましょうか。まず世の中に後れを取らぬためにも、最近は既知としてよく使われている色々な英語、「コンセプト(概念)」「コンプライアンス(法令順守)」「エビデンス(根拠、証拠)」「イノベーション(刷新)」「ガバナンス(統治、支配)」等を、覚える努力を一緒にしてみましょうか。小池都知事さん次はどんな単語ですか。

多数の人間が短期間にその寿命を全うできない原因として、戦争、大災害の他に感染症があります。歴史的にみても人類は感染症との戦いを続けてきました。日本では昔から麻疹(はしか)と天然痘が代表的な感染症でした。麻疹は肺炎・脳炎を併発する乳幼児には危険な病気でした。3歳になった子供を祝うのは両親の安堵の証なのです。天然痘は8世紀に大流行をして大勢の人が亡くなりました。奈良の大仏はその鎮静を祈願して建立されたと言われています。最近の百年をみましても、世界的に流行したスペイン風邪は日本でも約30万人の死者を出し、丁度勃発していた第一次世界大戦では罹患する兵士が多く、大戦の終結を早めたとも言われています。その後も日本脳炎、小児麻痺、エボラ出血熱、サーズ、マーズ等、見えない敵は矢継ぎ早に人類に攻撃を仕掛けています。これだけ医療が進歩しているのに奇妙に思えるかも知れませんが、人類が唯一撲滅した感染症は、1980年にWHOが撲滅宣言を出した天然痘だけなのです。18世紀のジェンナー医師と大仏様には感謝です。

昭和21年の内閣告示で動植物は仮名表記すると決まり、我々はタンポポを「蒲公英」と書こうとしません。昭和56年にその告示は廃止されましたが、その間に教育を受けた脳に刷り込まれているようです。それで「麒麟」と書いた時は動物園の「キリン」ではなく、ビールのラベルにある強面の想像上の動物を思い浮かべます。麒麟は大衆が待ち望んでいる聖人と共に現れるとされています。大量のワクチンを背にした大きな麒麟を従え、有能な人物が首都に現れるのを国民は首を長くして待ち望んでいます。

コロナ禍が落ち着けば、日本橋にある麒麟の石像を見に行くと決めているのだが。

副院長 高橋 修司

#### ◆特集

**各科 医師のごあいさつ**  
◆**新採用医師の紹介**  
◆**腎臓病総合医療センター開設のご案内**

#### 札幌北楡病院 基本方針

- 患者さんに公正な医療を提供します。
- 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
- 患者さんの安全を保障し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 高度医療を積極的に推し進めます。

# 医師のごあいさつ

## 外 科

服部 優宏

外科は米川元樹、目黒順一、久木田和丘、小野寺一彦、堀江卓、高橋宏明、服部優宏、熱田義顕、後藤順一、谷山宣之、佐藤正法、杉山昂の12名です。透析・血管外科チームと消化器外科チームに分かれて診療しています。透析関連ではBlood Accessトラブル、維持透析、アフェレーシスに幅広く対応し道内の多くの施設からの信頼を得てあります。2020年には熱田義顕先生が血管外科医として着任して下さり、四肢慢性動脈閉塞疾患や静脈疾患の外科手術に対応できるようになりました。消化器外科はロボット手術も含めて内視鏡外科を重点的に行っており、現在、内視鏡外科学会技術認定医が2名あります。2020年の外科の手術件数は1451例で、消化器外科の全麻手術は246例でした。今年もCOVID19問題でまだまだ困難な年ではありますが、外科として可能な限り多くの手術を行えるように努力していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

## 肛門外科

小野寺 一彦

「どうしてこんなになるまで受診しなかったの?」「コロナ流行ってたから。」「先生、薬多めにください!」「うーん、限界超えてるが仕方ないか。」  
非日常が日常になって1年、当科の診療体制は特に変わりありません。  
肛門診療をしていて最近思う事をいくつか述べさせていただきます。  
便秘、下痢、排便習慣が痔の発生や悪化と深く関与していますが、痔主にならぬために排便の知識や食事や飲酒の影響を学童時期から学習する必要があると思います。理解力が乏しくなった一人住まいの高齢者に指導するのは至難の技です。  
また、向精神薬や頻尿治療薬、妊娠や出産、脊髄などの神経疾患の便秘への関与も各科で説明されるべきだと思います。  
お尻の清潔と称して石鹼でゴシゴシするのは逆効果です。  
施設などで(時には自分で)摘便をされて肛門を怪我するケースが増えていますが、何らかの対応が必要でしょう。  
「すべては快適な排便のために」だけでなく、昨今言われるPatient-Reported Outcomeの向上に努めますので、今年度も宜しくお願ひ申し上げます。

## 腎臓移植外科・泌尿器科

三浦 正義

当科は、腎泌尿器疾患全般および腎移植診療を担当しています。特に負担の小さな手術や治療を行うことを重視しており、2019年10月より、国内初のTULSA(タルサ)治療を開始しました。

TULSAとはMRIガイド下前立腺超音波アブレーション術を表しており、早期の前立腺がんに対する切らない、放射線を用いない、副作用が少ない治療方法で、欧米では急速に普及している方法です。コロナ禍で患者数は少ないですが、現在までに14の方に治療を行いました。ダヴィンチシステムによるロボット前立腺全摘術と併せて、今後も前立腺がん患者様に負担の小さな治療を提供していきます。腎移植はコロナ禍で一時新規手術を中断した時期もありましたが、院内の感染対策、隔離病室といった体制整備を済ませてから再開しております。今年度から腎臓病総合医療センターを開設しましたが、常勤の腎臓内科の診療体制も開始して腎移植を含めた腎不全診療を更に充実させていきたいと思います。

## 血液内科

太田 秀一

新年度を迎えてのご挨拶をさせていただきます。世界的コロナ禍の現状において皆様も不安な毎日を過ごされていることと思います。当科は免疫不全状態にある血液病患者の対応が主ですが、院内感染対策の徹底により従来と変わらず診療が行えています。しかし、札幌市のコロナウイルス感染者の増加により公的病院の病床圧迫に伴う血液病床の減少や各施設でのクラスター発生によって当院へ血液病患者の受け入れ要請が増加しています。今後も病床運営はコロナ感染者数の推移に伴い不安定な状況が続くと思われますが、ワクチンや特効薬の開発によって医療体制が早く正常化するよう期待しています。また、今後も新型コロナウイルスを含む感染症予防を徹底し全ての患者さんに対し安心・安全な医療を提供していきます。

さて今回、令和2年度末における医師の異動はベテランと中堅医師の計4名(皆内、高橋、岩崎、笠原)と後期研修医3名(吉田、伊東、森)とこれまでにない大改革となりました。当科は北海道における血液疾患の受け入れ患者数は最多ですが、北大血液内科の教育研修施設としても重要な役割を担っています。なお、当院で長く診療に従事した医師は経験豊富な血液専門医であり道内の関連施設において多くの研修医を教育する責務があります。そのため、北海道における血液診療の発展のためにも今回の大幅な人事異動が必要となりましたことをご理解いただければ幸いです。一方、令和3年度4月からは新たに6名の医師が赴任いたしました。今回赴任した医師2名(小笠原勵起、日高大輔)は以前に当院で研修した後に北海道大学血液内科での基礎研究に加え北大病院での臨床経験を養った血液病のエキスパートです。さらに、新任若手医師4名(長井惇、藤井文彰、小島圭祐、杉村駿介)も北海道大学血液内科の関連施設での研修を継続しつつ、皆やる気満々で診療にあたっております。必ず皆様のご期待に応えるものと確信いたしております。これからも北極血液内科を宜しくお願い致します。

## 消化器内科

片桐 雅樹

消化器内科は、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患を担当しています。急性疾患に対応しており、食道・胃・十二指腸・大腸からの出血や胆管炎に対する診断・治療を随時行っています。

それに加え、早期胃癌・早期大腸癌に対しての内視鏡的粘膜下層切開剥離術、消化器癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する血球除去療法も行っています。

また外科治療の適応疾患については外科と密に連携しています。

今年度は、片桐雅樹、高野眞寿、重沢拓、田中秀五の4名で診療にあたっています。日本消化器病学会指導医2名・専門医1名、日本消化器内視鏡学会指導医2名、日本肝臓学会専門医3名で、質の高い医療を目指しています。

なお、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行のため、内視鏡検査・治療にあたりましては、日本消化器内視鏡学会のガイドラインに沿って、感染対策を行いながら、必要な検査・治療を行っています。



## 小児思春期科

小林 良二

当科は12年間勤務していただいた鈴木大介医師が天使病院に異動となり、2021年4月より5名の常勤体制となってあります。診療は今まで通り血液腫瘍性疾患を中心に化学療法や造血幹細胞移植を施行しており、また月3回の札幌市小児科2次救急医療を行っています。昨年、北海道が文部科学省の支援を受けたこともあり当科において4名の高校生が遠隔での授業を受け単位取得し進級が可能となっています。これは北海道の支援事業の全例が当院で行われたこととなります。

現在も新たに1名を加え2名が授業を受けている、もしくは準備中です。

今後も当科では疾患治療を行うとともに学習支援を行い、患者のQOL向上を考えていきたいと思います。



## 整形外科

東 輝彦

新型コロナウイルス感染症はまだその収束をみないまま、令和3年度をむかえました。大きく診療形態が変化しているなか整形外科は新たな医師を迎えて、3人体制でスタートしました。さらに充実した医療をめざしたいと思っています。

新たな感染症に加えて高齢化社会では90代、100歳の患者さんも多くなり、外傷や救急での入院に対して治療や手術の前に、内在する内科的全身状態の検査やその状態に対する治療が優先となります。時にはその全身状態では整形外科的手術やそれによる合併症のリスクが高すぎて、保存的治療を選択せざるを得ないことがあります。そんな患者さんが増えています。その保存的治療(非手術)に関しても全身状態のコントロールに関しては整形外科医のできる範囲を超えており、内科や外科の医師にお世話になるばかりです。

超高齢化社会では、より連携の取れた医療が必要となっています。各科の先生の協力を得ながら努力しているのが現状です。



## 麻酔科・緩和・ペインクリニック科 沼澤 理絵

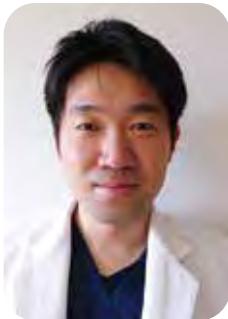
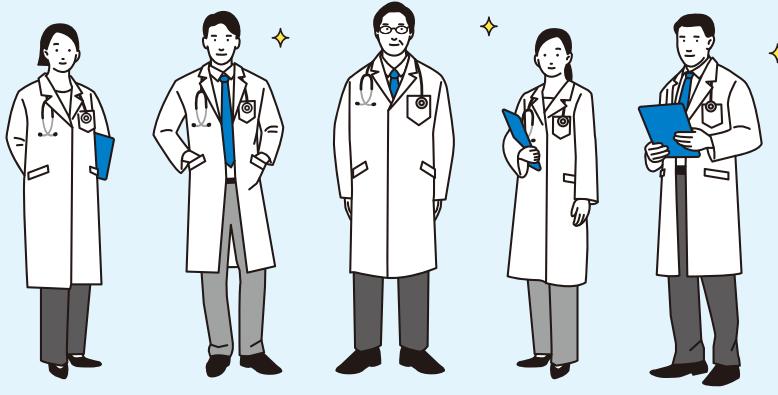
麻酔科は手術の麻酔はもちろんのこと、救急集中治療や緩和医療、ペインクリニックと幅広い守備範囲を有する科です。昨年1年間の全身麻酔手術件数は419件でした。当院では腎不全や血液疾患を持ちながら手術を受ける方も多く、特別な配慮が必要になります。外科手術はチーム医療であり、外科医師や看護師、臨床工学技士、放射線技師らと協働しながら皆様が安心して手術を受けられるように努めています。また、昨年から新型コロナウイルス感染症の流行が続いている、継続的な感染対策が求められています。

手術患者さん全員に対するスクリーニング検査を継続しますので、皆様の御理解とご協力をよろしくお願ひ致します。

当院麻酔科のもう一つの特色として、緩和ケアに力を入れていることがあります。緩和ケアもまたチーム診療として行っており、特に緩和ケア病棟では苦痛なく大切な時間を過ごせるよう多職種協働で診療を行っています。今年度から当院は日本緩和医療学会の認定研修施設に認可されました。専門的な緩和ケアを提供し、教育機関としても実績を重ねていきたい所存です。

# 新任医師の紹介

4月から10名の医師が新しく入職いたしました。  
よろしくお願ひいたします。



はじめまして。4月より北楡病院に赴任しました外科の杉山昂と申します。札幌市出身で北海道大学を卒業し、2年間の初期研修は一度北海道を離れ茅ヶ崎で勤務していました。医師3年目から北海道に戻り、北海道大学、砂川市立病院、市立稚内病院、洞爺協会病院に勤務し、今年の3月までは北海道大学大学院で癌の研究に携わっていました。趣味は、最近はコロナの影響もありできておりませんが、高校時代から続けているバレーボールをやったり、色々なところへ旅行して食べ歩きしたりすることが好きです。

外科

杉山 昂

Kou Sugiyama

札幌北楡病院は、透析診療や血液疾患を有している患者様が多く、外科診療においても普段以上の注意や準備をして診療に臨む必要があり、緊張している反面、他では経験できない多くのことを学ばせて頂いています。まだまだ不慣れで迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、他の医療者と協力して患者様にご納得いただける医療を目指して日々努めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



本年度から北楡病院に勤務をしています血液内科の小笠原励起と申します。東京の私立巣鴨高校出身です。平成20年に北海道大学を卒業し、以後市立札幌病院、市立函館病院、北楡病院、北海道大学病院、愛育病院に勤務いたしました。今回、9年ぶりに当院に戻ってくることとなりました。

久しぶりの北楡病院ですが、以前は紙カルテだったのが電子カルテになってたりと、勝手の違いにやや戸惑っています。また、私自身も以前は5年目の若手医師であったのがいつのまにか指導する立場となり、後輩医師も増え、責任感を持たざるを得ません。

血液内科

小笠原 励起

Reiki Ogasawara

造血幹細胞移植や強力化学療法といった治癒を目指す治療から、治癒を目指せない患者さんに対する緩和治療まで、幅広く対応して参りたいと存じます。自分が主治医となることが、患者さんにとっての利益になるように心がけます。また、私と関わるスタッフが快適に仕事をできるように努力いたします。

みんなで力を合わせて頑張ります。何卒よろしくお願ひいたします。



## 血液内科

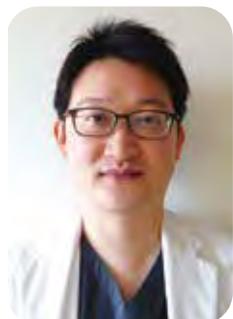
### 日高 大輔

Daisuke Hidaka

今年度より血液内科医師として赴任しました日高大輔と申します。出身は長崎県、大学は宮崎大学でして根っからの九州人ですが、医師になってから北海道に来てちょうど10年になります。北楡病院は2015年度に一度勤務する機会がありましたして6年ぶりに戻ってきました。当時診せていただいた患者さんやスタッフとの再会もあり、大変懐かしく思っております。この間は北海道大学病院で血液内科の臨床と研究の経験を積みました。特に白血病の遺伝子異常や新しい治療法についての研究を行い、医学博士号を取得いたしました。血液疾患は治療が複雑で長期にわたり、合併症や副作用も多彩なため丁寧な説明を常に心掛けております。

最近はなかなか出掛けることが難しく、休日は自宅や近所の公園で子供の相手をすることがほとんどです。長崎出身で寒さは苦手ですが、今後は子供と一緒にウィンタースポーツをやってみたいと思っています。

今年度は血液内科の医師が多数入れ替わっており、不安に感じられる患者さんも多いかと思いますが、他のスタッフとも連携しチームで最善の医療が提供できるよう努めていきたいと考えております。何卒よろしくお願ひいたします。



## 血液内科

### 長井 悟

Jun Nagai

今年度から血液内科に赴任いたしました、長井惇(ながいじゅん)と申します。生まれは名古屋市で、小学校の時に札幌に引越し、以来札幌育ちです。札幌南高校、北海道大学を卒業し、釧路労災病院、北海道大学病院に1年ずつ、市立函館病院に2年勤務し、今年度から当院で勤務させていただく運びとなりました。趣味はバドミントン、ドライブ、温泉、猫と戯れること、読書、映画鑑賞などです。最近popInAladdin2というプロジェクトを購入し、大画面で映画を見るのを楽しみにしていましたが、予想以上に多忙でほとんどできていません。

仕事上のことはもちろん、それ以外のことでも気軽に話しかけて下さい。



## 血液内科

### 杉村 駿介

Shunsuke Sugimura

令和3年4月より札幌北楡病院に赴任いたしました血液内科の杉村駿介と申します。出身は札幌、育ちも札幌です。札幌南高校、北海道大学卒業です。大学ではゴルフ部に所属しており、今でも趣味はゴルフです。ベストスコア82、アベレージ100のアベレージゴルファーです。研修では、1年目は市立釧路病院で研修をし、たくさんの美食と出会ったことで体重が7kgも増えてしまいました。2年目は大学病院でしたが、地域研修やプライマリ研修で留萌、深川の病院で研修をさせていただきました。それぞれ、地域の特色が感じられる素敵な土地でした。

北楡病院は、道内随一の血液内科診療を行なっている病院であり、専門的な診療を勉強・提供する場として素晴らしい機会に恵まれたものと大変嬉しく思います。まだまだ、未熟者ではございますが、日々の勉学を怠ることなく、患者さんには適切な医療を提供できるよう、精進していく所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 新任医師の紹介



血液内科

**小島 圭祐**

Keisuke Kojima

札幌出身、札幌南高校卒業、北海道大学医学部医学科卒業後、初期研修1年目は帯広厚生病院、2年目は北海道大学病院で行い、2年目研修中に血液内科に入局いたしました。  
2021年4月現在は後期研修2年目として札幌北楡病院血液内科で研修しております。  
自分のこれまでの経過を振り返ると、自分の直感を大事にして生きてきたように思います。親族に医療関係者は1人もいませんでしたが、医師を志したのは小学生のころの直感で、他の職業はほとんど将来の選択肢にありませんでした。心臓外科に進むつもりで医学部に入りましたが、医学部4年生の手術体験実習で「違うな」と直感し、将来どの専門分野に進むか悩みました。5年生の臨床実習で血液内科を5日間ローテートしたときに、血液内科の先生方が自分の思い描いていた医師像にぴったり合っていて、臨床医になるなら血液内科へ進もうとほぼ直感的に決めました。この臨床実習の前後で、自分の中で血液内科のイメージは大きく変わりました。それまで、血液内科は血液という狭い領域のみを診ている診療科というイメージを抱いていましたが、今ではむしろ、全身臓器を最も幅広く診る専門家だと思っています。血液内科は全ての診療科の中で最も進歩のスピードが速い専門分野でもあると思います。これからは直感のみに頼らず、変化し続ける医学の常識を冷静に観察して遅れずについていける医師になりたいと考えております。何卒よろしくお願ひ致します。



血液内科

**藤井 文彰**

Fumiaki Fujii

2021年4月より血液内科医として赴任した藤井文彰と申します。高校までは愛知県で生活をし、大学から長野県に移り、初期研修の2年間も長野県内で行いました。食べ物がおいしく、観光名所が多い「北海道」という土地への憧れがあったことから、後期研修のタイミングで北海道に参りました。大学時代は、夏はトレッキング、冬は競技スキー（回転、大回転、クロスカントリーなど）をしていました。北海道でも山登り、スキーを堪能したいと思っています。

昨年度は、斗南病院血液内科で1年間勤務をしました。悪性リンパ腫、骨髓異形成症候群、急性骨髓性白血病、多発性骨髓腫、慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫など幅広く疾患を経験しました。型通りの治療ができないことも多く、この患者さんにとって、どの治療が最適なのかと悩む日々でした。

これからも知識・技術を身に着け、内科医としての基礎を築いていきたいと思います。まだまだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、日々精進します。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



## 消化器内科

### 重沢 拓

Taku Shigesawa

この春、3年ぶりに戻ってまいりました消化器内科の重沢です。北楡を離れてから大学院を経て、一皮むけて帰ってきました。以前在籍していた時はたった1年間でしたが、多くの先生方、看護師さん、コメディカルの方々など皆さん温かく接していただき、たくさんの思い出ができました。その友情はいまだ続いています。今回、希望通り北楡病院に戻ることができて非常にうれしく思います。大学院では研究や臨床など狭い分野の専門性が高いことをやっていたので、久しぶりにESDやERCPなどできるとうずうずしています。これから患者さんのため、北楡病院のために尽力したいと考えております。宜しくお願ひします。



## 消化器内科

### 田中 秀五

Shugo Tanaka

4月よりこちらでお世話になっております、消化器内科の田中 秀五と申します。北海道岩見沢市生まれ札幌市で育ち、北嶺高校・北海道大学医学部医学科を卒業後は札幌・苫小牧・網走で消化器内科や一般内科として勤務をさせて頂いておりました。

大学時代はスキー部に所属しておりクロスカントリースキーをやっていました。ゲレンデスキーと比べるとマイナーなジャンルのためご存じない方もいらっしゃるかもしれません。雪山に作られたコースを軽く作られたスキー板で「走る」ような競技で、斜面を下ることがあります。雪上の陸上競技のようなものかもしれません。非常に疲れて辛いこともある競技ですが、北海道の自然を満喫できる競技です。

当院は高度で専門的な診療を行っており、透析患者様や移植手術を受けられる患者様、様々な抗癌剤治療を受けられる患者様など高度医療を必要とする方を多数診療しており、当科で施行する検査や治療についても慎重な対応をと心がけております。今までよりも緊張した気持ちで勤務に励んでおりますが、そういう医療を必要とされている患者様の力になれた時には非常に嬉しく思います。

皆様のお力となれますように誠心誠意、診療をさせて頂きたく存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 腎臓内科

### 吉原 真由美

Mayumi Yoshihara

よろしくお願ひいたします。

この度、腎臓内科として勤務させていただくこととなりました吉原真由美と申します。平成14年札幌医科大学卒です。ネフローゼ症候群などの慢性糸球体腎炎や、急性腎障害、また慢性腎機能障害の保存期加療から腎代替療法に至るまでの加療を担当させていただきます。

これまで勤務しておりました函館五稜郭病院は道南唯一の腎臓内科であり多くの患者様の診療に携わらせていただいておりましたが、この度の北楡病院への赴任は腎臓内科常勤医師新規開設のため、周辺医療機関からさらには札幌全域・道央全域より広く患者様をご紹介いただけるよう励みたいと思っております。特に道南3次医療圏では腎代替療法として、腎移植は行われておりませんでしたので、この度腎移植医療にも携わらせていただけることは大きな喜びです。

# 腎臓病総合医療センター開設のご案内

当院では透析療法と腎移植診療を重要な診療の柱として地域の皆様の腎臓病治療に尽力しております。末期腎不全になった患者様には、ご自身の働きなくなった腎臓の代わりとなる治療が必要です。その一つは透析療法であり、大きく分けて血液透析と腹膜透析の2つの方法があります。

血液透析は機械を用いて血液を浄化する方法ですが、通常週3回程度の通院が必要となります。

腹膜透析はご自宅で行える透析療法で、2~4週間ごとの通院で行うことができます。当院では血液透析療法と腹膜透析療法を行っております。また当院のみならず、他の医療機関で透析を受けておられる方の血管トラブルに対する治療も広く担当させていただいております。

さらに、末期腎不全の方の根本的な治療として腎移植があります。腎不全を治す方法ですので、透析療法に比べて健康状態や生活の質がより向上します。当院では古くから腎移植治療を行っており、2009年から専門の診療科として腎臓移植外科を開設し、札幌市内4施設ある腎移植医療機関の一端を担ってきました。

腎臓病は、治療により治癒するものもあれば、治癒しないものもあり、発症初期から継続的に生涯にわたる継続的な治療が必要になっていきます。一般的に、腎臓病治療においては発症初期の診断・治療においては腎臓内科医が主に担当します。末期腎不全に至り、血液透析を選択すると、腎臓内科医または透析専門医が主に担当し、血液透析のための血管手術においては血管外科医が主に担当します。腹膜透析においては腎臓内科医や透析専門医が担当し、腹膜透析を行うためのチューブ関連の手術では腹部外科医等が担当します。腎移植においては移植外科医や腎臓内科が主に担当します。腎臓病治療においては医師のみならず、透析担当の看護師、認定看護師、移植コーディネーターのような看護職員の存在が重要です。専門性の高い栄養管理が必要なので栄養士による関わり、筋力減少・体力低下を防ぐことが重要なため理学療法士による関わりも重要です。一般人とは薬の効き具合も変化しますし、特殊な薬剤による治療も必要であり、薬剤師の関わりも重要です。特に血液透析療法では機械の操作、管理において臨床工学技師の存在も重要です。様々な社会的支援を受けたり、在宅治療のサポートなどにおいては社会福祉士の役割も重要です。このように、腎臓病治療は複数の診療科がそれぞれの得意分野を発揮し、多数の職種の連携によってなりたちます。

当院では、継続的な腎臓病治療の中核となる経験豊富な腎臓内科医を今年度より迎えました。

これを機に、これまで以上に切れ目のない包括的な腎臓病治療を患者様に提供することで地域医療に貢献すべく、新しく「腎臓病総合医療センター」を開設しました。腎臓病治療、急性血液浄化、維持血液透析治療、腹膜透析治療、腎移植治療のすべてを完結できる「腎臓病総合医療センター」は、北海道内では当院が初となります。特に、その中で中核的な役割を果たす「腎代替療法選択外来」も新たに開設します。

末期腎不全の方の治療方法の選択においては、身体的な状態、ライフスタイル、ご家族の状況などを総合的に考えて、ご相談の上で決めていく必要があります。しかし、日本では末期腎不全になってしまった方に対しての情報提供が不十分であり、3つの治療法のうち、最も説明が簡単である血液透析が選択されることが非常に多く、日本以外の外国と比べるとかなり偏った状態になっています。腎臓の働きが悪くなってきた患者様には、早い段階から十分な情報提供を行い、医療者と患者様が共同して治療選択を考えていくことが理想的です。この情報提供のための説明は、時間と労力を要し、専門的知識も要求されます。当院では、3つの治療法すべてに経験豊富な医師、医療スタッフによる情報提供を行うことで、地域の患者様の適切な腎臓病治療選択のお手伝いをさせていただきたいと思います。相談だけをしたい方も歓迎いたします。

腎臓病総合医療センターでの診療に関するご相談は病院にご連絡をいただければ適切な診療科に振り分けさせていただきます。

腎臓病総合医療センター 副センター長 三浦 正義

## 腎臓病総合医療センター 診療内容

- ・血尿、尿たんぱくの精査・糸球体腎炎などの内科的腎疾患
- ・先天的腎疾患
- ・腎血管疾患、腎腫瘍、腎がん、尿路がんなどの泌尿器科的腎疾患
- ・慢性腎臓病診療
- ・腎代替療法選択外来
- ・維持血液透析療法(人工透析)
- ・在宅血液透析療法
- ・腹膜透析療法
- ・腎移植治療(生体腎移植・献腎移植)



## 腎臓病総合医療センター 組織図

### 腎臓病総合医療センター

外科

腎臓内科

内科的腎疾患

慢性腎臓病全般

腎代替療法選択外来

血管アクセス治療

血液透析 在宅血液透析

腹膜透析

腎移植

泌尿器・腎移植外科

泌尿器科的腎疾患

腎尿路腫瘍

## 腎臓病総合医療センター 担当医ご紹介

外 科

久木田 和丘(腎臓病総合医療センター長・人工臓器治療センター長)

・血液透析全般を担当します。

泌尿器・腎移植外科

三浦 正義(腎臓病総合医療センター 副センター長)

・主に泌尿器疾患全般、腎尿路・前立腺腫瘍(がん)や腎移植を担当します。

腎臓内科

吉原 真由美

・泌尿器疾患以外の腎臓病すべてを担当します。

・腎代替療法選択外来を担当します。・腹膜透析外来を担当します。  
・腎移植を担当します。

外 科

後藤 順一(人工臓器治療センター副センター長)

・主に血液透析全般を担当します。

外 科

谷山 宣之(バスキュラーアクセス副センター長)

・主に内シャントなどの血液透析用ブラッドアクセスを担当します。

泌尿器・腎移植外科

東山 寛

・主に泌尿器疾患全般を担当します。

## 外来診察担当一覧

□ 午前 □ 午後

(令和3年4月1日現在)

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科 血液内科	太田 小笠原(正) 小笠原(勵) 小島	小林 今村 日高	小林 今村 江端 宮島	岡田 杉村 宮島	小林 小笠原(正) 岡田 吉田	太田 今村 吉田	太田 小林 小笠原(勵) 荒	江端 藤井 荒	小林 小笠原(正) 岡田 日高	今村 小笠原(勵) 長井	交替医師
消化器内科	片桐 田中	重沢	重沢 梅村	高野	金光 片桐	古川 [研専門外来] 須田 (13:30~14:30)	高野 重沢	片桐	片桐 高野	田中	交替医師
糖尿病代謝内科					※1澤村		※1澤村		澤村		
循環器内科					交替医師		交替医師				
外科	米川 (隔週) 後藤	目黒	服部 (隔週) 杉山	佐藤/杉山 (隔週交代) 久木田	目黒 服部	堀江 [フットケア外来] (13:30~16:00) (完全予約制)	堀江 高橋	高橋	久木田 佐藤	堀江	交替医師
血管外科	熱田(隔週)										
肛門外科	小野寺		宮下	山内	宮下	山内	小野寺		宮下	山内	交替医師
腎臓移植外科 泌尿器科	三浦(9:30~) (予約診療)				東山 (予約診療)		三浦(9:30~) (予約診療)		東山 (予約診療)		
東山(午前のみ予約診療)							東山				
腎臓内科	吉原				吉原		吉原				
整形外科	東高橋		東大野		高橋		東大野		高橋野 (11:00まで)		
小児思春期科	小林(邦) 小林(良)	小林(邦) 堀	小林(邦) 小玉	堀 [アリギー疾患] 小林(邦)	小林(邦) 柳	大島 小玉	【血液外来】 小林(良) (完全予約制)		松島 小林(良)	柳 [血液外来] ※2小林(良) (完全予約制)	交替医師
スリーブ外来			高橋								
鍼灸・ペインクリニック (完全予約制)					沼澤						
禁煙外来 (完全予約制)		三浦									
歯科 (完全予約制)	加藤		加藤/大畠	加藤			加藤/北大医師		加藤	加藤	

※1 糖尿病代謝内科: 第3水曜日・第3木曜日は休診となります。ご注意ください。

※2 金曜日午後的小児思春期科小林良二医師は「長期フォローアップ外来」「セカンドオピニオン外来」も併せて担当しております。

◇ 都合により代診・休診となる場合がございますので事前にご確認をお願いします。

外来予約  
電話受付

【平日のみ】午前9時00分～12時00分／午後13時30分～16時00分

予約専用電話 **TEL 011-865-0201**

歯科予約

【月・火・木・金】午前9時00分～11時30分／午後13時30分～16時30分

【水・土】 午前9時00分～11時30分

**TEL 011-865-8800(歯科直通)**

## 編集後記

いつも広報誌エルムをご覧いただきありがとうございます。

今年のGWは肌寒い日が続き、家でのんびり過ごされた方も多いのではないでしょうか。夏に向けて暖かくなりますが、体調管理にはより一層気を付けてお過ごしください。  
(A・K)



### 診療科目

外科・肛門外科・消化器外科・腎臓移植外科・泌尿器科・内科・血液内科・消化器内科・腎臓内科・糖尿病代謝内科・循環器内科・小児思春期科・整形外科・麻酔科・放射線科・歯科

住 所 札幌市白石区東札幌6条6丁目5番1号

TEL: (011) 865-0111 FAX: (011) 865-9634

交 通 地下鉄白石駅5番出口から環状通り 北の方へ徒歩5分左手

ホームページ <https://www.hokuyu-aoth.org/>

